

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	神戸大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	文化情報リテラシーを駆使する専門家の養成 (グローバル化時代における多元的文化状況に対応した教育プログラムの開発)		
主たる研究科・専攻名	国際文化学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 吉岡 政徳		

### 【教育プログラムの概要】

**【文化情報リテラシー教育】** 本取組の目的は、高度な『文化情報リテラシー』を修得させる教育を行うことである。養成される人材は、1)『文化情報リテラシー』を駆使し得る高度な実務家・研究者、及び、2)文化情報リテラシー自体を研究対象とし新しい方法論を開拓する研究者である。『文化情報リテラシー』とは、価値観が多様化し、共同意識が揺らいでいる今日の多元的文化状況において、流動化し、互いに矛盾する文化情報を読み解く能力のことを指す。グローバル化と反グローバル化の動きが衝突し、媒体のマルチ化が急速に進行しつつある中で、語り・音・映像・動作・表情・臭い・触感などの不定形な情報の持つ重要性が高まっている。こうした状況に文化研究が実践的に対応しようとするならば、従来の文字資料に依存した文献研究の枠組みや、フィールドワークによる言語を主とした調査データを分析する手法だけでは、文化そのものの動態を把握することが困難になりつつある。本取組は、現行のカリキュラムを踏まえた上で、『文化情報リテラシー』の修得に重点を置いたプログラムを新たに組み込み、本研究科における人材育成の一層の強化を図るものである。

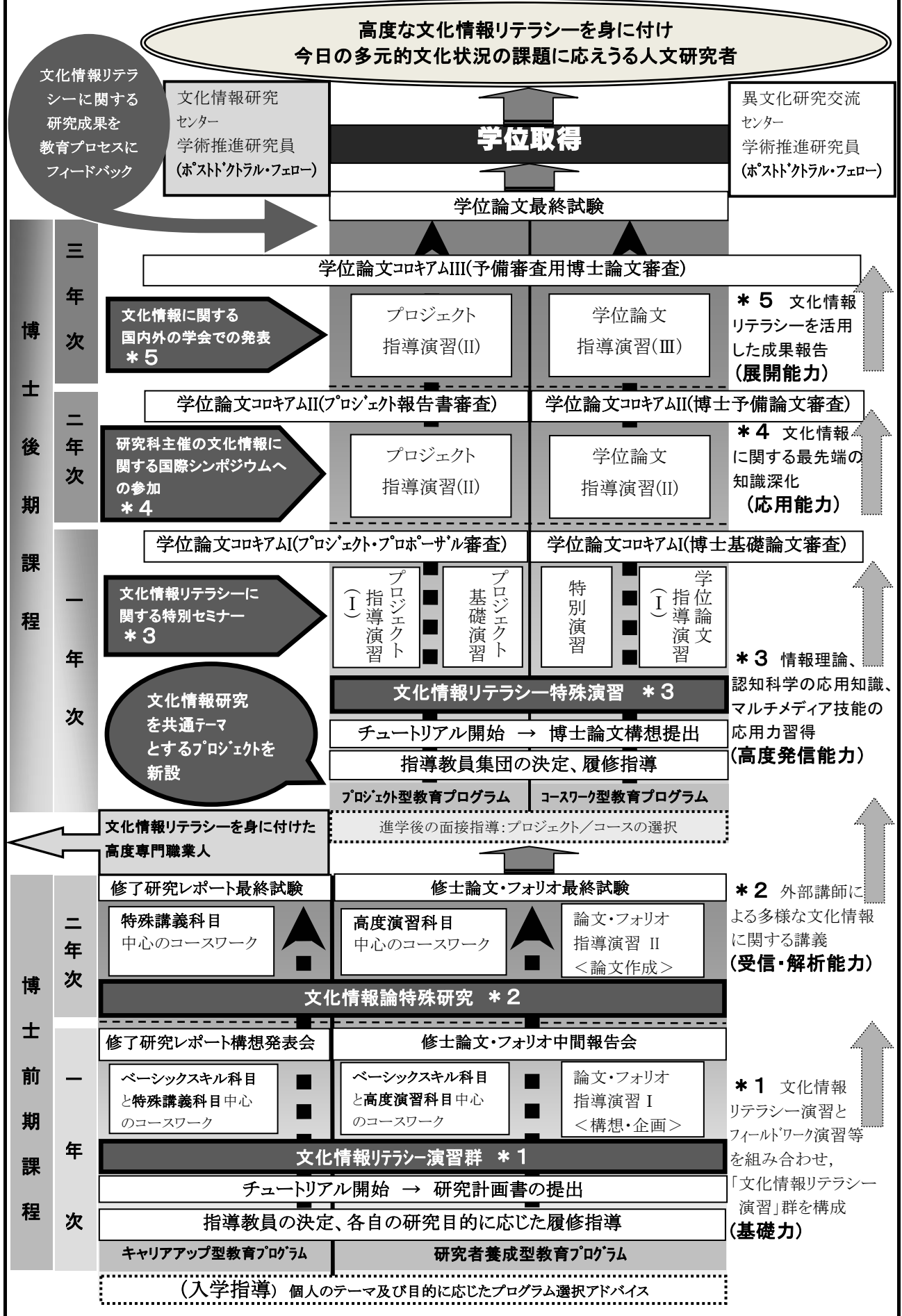
**【基盤となる研究科の教育体制】** 本年度より改組・発足した本研究科では、今日の錯綜した文化状況に対応した人材を養成するために、「文化関連専攻」と「グローバル文化専攻」の2専攻を設置している。前期課程では、高度な専門的職業人の育成を目的とする「キャリアアップ型教育プログラム」、研究者養成を目的とする「研究者養成型教育プログラム」を設定している。両プログラム共通の様々な「ベーシックスキル科目」、及び外国語運用能力やITリテラシーなどを十分に備えた人材を育成する複数の「キャリアアップ型演習」、外部の講師を招聘し、実践的内容を中心とした「特殊科目」を設け、理論と実践を兼ね備えた専門家の養成を行っている。後期課程では、「コースワーク型教育プログラム」に加え、学生と教員がチームを組んで特定テーマの共同研究に取り組む「プロジェクト型教育プログラム」を設定し、高度な研究者の養成を行っている。この目的は、専門性と学際性とを兼ね備えた共同研究プロジェクトの企画・運営に学生を参加させることで、幅広い視野と主体的な研究能力、社会に発信する能力の涵養を図ることにある。これらの段階的なプログラムを通じて本研究科では、グローバル化の下で進行する今日の多元的文化状況を的確に解析し得る人材の育成を目指している。

**【文化情報リテラシーを涵養する具体的取組】** そのために、本取組では、『文化情報リテラシー』に重点を置いた教育体制を以下のように体系的に構築する。前期課程では、1年次に開設している「ベーシックスキル科目」に「文化情報リテラシー演習」を新たに加え、『文化情報リテラシー』の基礎的な能力を涵養する。2年次に外部招聘の専門家による「文化情報論特殊研究」を新設し、多元的な文化情報を的確に読み解く受信・解析能力を涵養する。後期課程では、1年次に「文化情報リテラシー特殊演習」を新たに組み込み、文化情報に関連する認知科学の基礎知識やマルチメディア技能の応用力を習得させる。これによって、『文化情報リテラシー』を駆使した高度な発信能力を涵養し、実践的な研究者の養成を行う。また、『文化情報リテラシー』そのものを研究課題とする「プロジェクト型教育プログラム」を発足させ、より高度なレベルを目指す研究者を育成する。2年次に国際シンポジウムへの参加、3年次には国内外の学会での発表を行わせることにより、応用能力、展開能力を涵養する。本取組によって養成された人材に研究科の教育で活躍する場を与えると同時に、研究科附設の「文化情報研究センター」(平成20年度設置予定)での研究活動に参加させることで、教育と研究の質を相乗的に高める。

**【本取組を実施する基盤】** 本研究科は、文化人類学、社会思想史、カルチュラル・スタディーズなどの文化の動態研究を専門とする教員とともに、言語学、情報学、認知心理学などコミュニケーションに関する研究を専門とする教員を擁している。また、「(株)国際電気通信基礎技術研究所」との先端的コミュニケーションをテーマとする連携講座も設置しており、本取組の遂行に必要な組織的基盤は十分に整っている。さらに、研究科附設の「異文化研究交流センター」では、歴史的に多元的文化状況を有する「神戸」という立地条件を活かし、自治体の委託による「在日外国人」の生活実態調査研究などを実施しており、『文化情報リテラシー』の応用・実践の場も有している。こうした基盤の上に構想された本取組は、複雑高度化する現代社会の要請に応える高度な人文学分野の専門家を養成する、独創的かつ実現性の高いプログラムである。

神戸大学：文化情報リテラシーを駆使する専門家の養成

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



文化情報リテラシーに関する研究成果を教育プロセスにフィードバック

文化情報研究を共通テーマとするプロジェクトを新設

異文化研究交流センター  
学術推進研究員  
(ポストドクトラルフェロー)

文化情報研究センター  
学術推進研究員  
(ポストドクトラルフェロー)

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「深い異文化理解能力及び自在なコミュニケーション能力を持って対応し得る、豊かな学識及び創造的な研究能力を備えた人材を養成する」という、研究科の人材養成目的が掲げられ、それに沿って、学生のキャリアパスに応じた知識・技能の体系的涵養、学位授与までの教育プロセス管理など、様々な教育上の工夫がなされており、特に教員組織の充実や、大学院生の支援体制等については優れており、教育プログラムを展開するための基盤が整備されている。

教育プログラムについては、現代社会において一段と多方面で要請される「文化情報リテラシー」を備えた人材を養成するという目的が掲げられており、人文科学に関する専門的応用能力の涵養という点で意欲的な教育プログラムとして評価できる。ただし、カリキュラムの核をなす演習の内容等については、教育プログラムの実現に向けて更なる具体化が必要である。